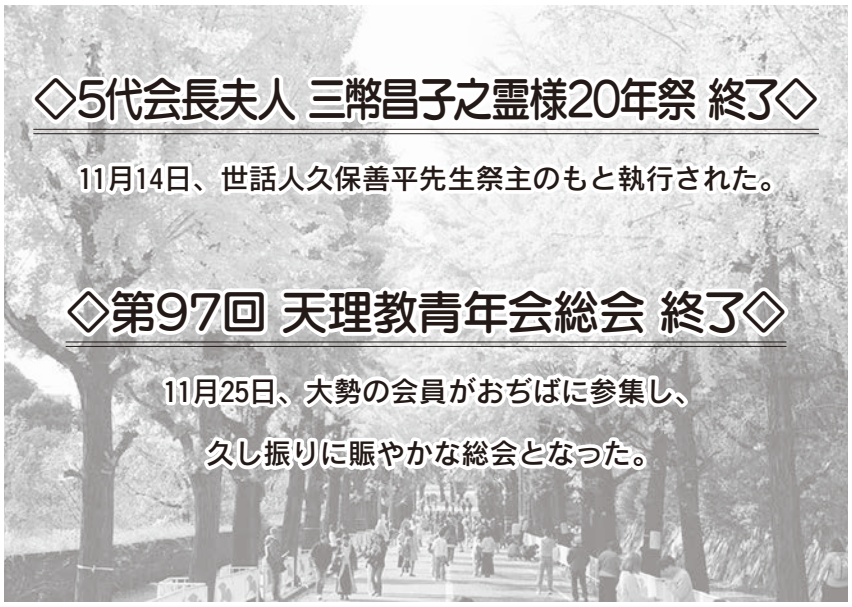
網走月報

発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

立教186年
活動方針

「教祖のひながたを目標（めどう）に
全教会心定めの達成」



◇5代会長夫人 三幣昌子之霊様20年祭 終了◇

11月14日、世話人久保善平先生祭主のもと執行された。

◇第97回 天理教青年会総会 終了◇

11月25日、大勢の会員がおぢばに参集し、
久し振りに賑やかな総会となった。

大教会のHPがご覧になれます！
月報には掲載されない写真もいっぱいです！
ぜひ一度ご覧下さい♪

大教会十一月月次祭

大教会11月の月次祭は、12日午前9時30分から大教会長祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様の御守護に御礼申し上げた後、「御本部の大祭では、網走に繋がる子供達がおぢばへ参集し、立教の元一日の大きな理を賜り、有難くも真柱様のお言葉を頂戴しましたことをお礼申し上げると共に、おぢば講習会では教友同士が励まし合うことができ、誠に有難うございました。又、十月は初席者四名の人の御守護を頂戴しましたことも厚く御礼申し上げます。更には、十月二十九日は各地で第一回ようぼく一斉活動日を開催させて頂き、年祭活動の大切な時旬に、参加者が尊いおぢばの理を頂戴しましたこと重ねて心より御礼申し上げます。」と奏上した。

その後座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められ、参拝者は共に勇んでみかぐらうたを唱和した。

神殿講話　結城和広　役員

神殿講話全文

この度の年祭では、諭達のご発布を頂く前から、「真柱の理」というところから勉強させて頂き、教祖百四十年祭に向かう年祭活動に、良いスタートが切れたのではないかと思わせて頂いております。

そして、昨年の諭達のご発布から一年、先月の秋季大祭では、真柱様からお言葉を頂戴でき、ありがたく拝聴させて頂きました。春秋の大祭での祭典講話の時、真柱様は神様になると、聞かせて頂きます。と言う事は、このお言葉は私たちへのおさしづと同じですので、しっかりと心に納めさせて頂かなければならないと思います。

この度の諭達では、皆さんが感じていることだと思いますが、「教祖のひながた」に非常に重きを置かれていると思います。諭達の中で、

おさしづに、

ひながたの道を通らねばひながた要らん。（略）ひながたの道より道が無いで。

（明治二十二年十一月七日）

と仰せられている。教祖年祭への三年千日は、ひながたを目標に教えを実践し、たすけ一条の歩みを活発に推し進めるときである。

と述べられています。

このおさしづ、略されていまして、前後非常に長いおさしづになります。大事な部分の大意は、

教祖は、たすけ一条のために、十年、二十年と、筆舌に表すことの出来ないような困難な道を通ってきたのである。しかし、千年も二千年も通ったわけではない。僅か五十年の間の道であった。教祖は、五十年の間、たすけ一条のために丹精したのであるが、しかし、皆の者に、五十年、三十年も通れと言えば難しいであろう。又、二十年も十年も通れと言うのではない。まあ十年の中の三分の一、つまり、三

年の間を通ればよいのである。

その三年といえば、苦労の五十年を通った教祖ひながたの道すがらから見れば、三日くらいのものである。それを最後まで通りきればよいのである。わずか千日間の道を通れと言っているのである。実は、その千日の間を通るのが容易なことではないのである。教祖のひながたの道より他に、世界たすけの真実の道はない。人間思案で、どれ程急いだとて、思い通りにゆくものではない。ひながたの道より他に、親神の自由をいただく道はない。

と言われているおさしづなのですが、このおさしづの一番最後にはこう仰られています。

三年辛抱すれば、落ちようと思うても落ちられん。たったそれだけの事が分らん。そこで皆一つ〳〵の理を寄せてくれるよう。僅か三年の間のことを、長う取るからどんな理も出る。たった三日の間や。三年の道通れば、不自由しようにも、難儀しようにもしられやせん。たった三日の間や。

とあります。

三年間、ひながたの道を一条に辿るならば、各人のいんねんのために苦労せねばならない処も、苦労すること無く、無事に通らせて頂ける。たったそれだけの事が、本当に分かっていない。そこで、皆真実の心を、一人ひとり寄せ合って、一手一つに勤めてくれるよう頼んでおく。

僅か三年間の事を大義大層に思うから、先案じをしたり不足したりするのである。たった三日の事であると、心に定めねばならない。三年の間、ひたすらひながたの道を辿るならば、不自由しようにも難儀しようにも出来なくなるのである。それは、三日間の通り方次第である。

とまで神様が約束してくださっています。こんなに心強いことはないのではないでしょうか。

教祖のひながたを勉強させて頂くのにまず逸話篇というのが、一番入りやすい所かなと思います。我々教会長夫妻も、今、この逸話篇から、くじ引きで一つ引いて、一ヶ月その当たった逸話を心に置き、感じたひながたを実践させて頂く、ということをさせて頂いていますが、先日、この逸話篇の中のある有名な逸話で、今まで聞いたことのない解釈と言いますか悟り方をされた話を聞きました。

四十四番の「雪の日」という増井りん先生のご逸話です。全文ではないですが読ませて頂きます。

「正月十日、その日は朝から大雪であったが、りんは河内からお屋敷へ帰らせて頂くため、大和路まで来た時、雪はいよいよ降りつのり、途中から風さえ加わる中を、ちょうど額田部の高橋の上まで出た。この橋は、当時は幅三尺ほどの欄干のない橋であったので、これは危ないと思い、雪の降り積もっている橋の上を、裸足になって這うて進んだ。そして、ようやくにして、橋の中程まで進んだ時、吹雪が一時にドッと来たので、身体が揺れて、川の中へ落ちそうになった。こんなことが何回もあったが、その度に、蟻のようにペタリと雪の上に這いつくばって、

なむてんりわうのみこと

と、一生懸命にお願いしつつ、やっとの思いで高橋を渡り切って宮堂（みやんど）に入り、二階堂を経て、午後四時頃お屋敷へたどりついた。そして、つとめ場所の、障子を開けて、中へ入ると、村田イヱが、「ああ、今、教祖が、窓から外をお眺めになって、

『まあまあ、こんな日にも人が来る。なんと誠の人やなあ。ああ、難儀やろうな。』

と、仰せられていたところでした。」と、言った。

りんは、お屋敷へ無事帰らせて頂けた事を、「ああ、結構やなあ。」と、ただただ喜ばせて頂くばかりであった。

中略

早速と教祖へご挨拶に上がると、教祖は、

「ようこそ帰ってきたなあ。親神が手を引いて連れて帰ったのやで。あちらにてもこちらにても滑って、難儀やったなあ。その中にて喜んでいたなあ。さあ〳〵親神が十分々々受け取るで。どんな事も皆受け取る。守護するで。楽しめ、楽しめ、楽しめ。」

というお話ですが、この教祖のお言葉、「あちらにてもこちらにても滑って、難儀やったなあ。その中にて喜んでいたなあ。」と言われているのですが、増井りん先生は、お屋敷に無事着いてからは喜んでいますが、歩いて帰ってこられている最中に、喜んでいた姿は一つも書かれていないんです。橋の上で落ちそうになった時に、「なむてんりわうのみこと　なむてんりわうのみこと」と言われた描写しか書かれていないんです。と言う事は、このなむてんりわうのみこと、と神名を唱える事が、教祖から見て喜んでいたなあ、と、受け取って下さるのではないかと、そう言う悟り方です。

神名を唱えると言いますと、今のりん先生の時のように、危ない時、とっさに出ることもたまにはあるかもしれませんが、めったにないと思うのです。やはり日常で神名を唱える機会と言いますと「おつとめ」です。座りづとめ、第一節で二十一回、第二節で一回唱えています。

我々人間がおつとめを勤めることで、神様から見たら、ああ、この子は喜んでいるなあ、と受け取って下さるので

はないでしょうか。

三代真柱様の諭達第二号（教祖九十年祭の時）の中で、

「つとめは、人間世界創造の奇しき守護を、よろづたすけの上にお見せいただく、根本の道である。教祖五十年の道すがらは、このつとめの急き込みにほかならない。教祖年祭の元一日もまた、ここに由来する。仰せ通りのつとめをするという一事に、幾多の苦心が払われて来た道の歴史に照らす時、有難い今日の道である。感謝の真心を捧げつつ、一手一つ、つとめに徹する姿を以て、親心に応え奉らねばならない。」

と、仰せ下されておられます。

教祖は、現身を隠される間際までつとめを急き込んでおられました。まず、おつとめをしっかりと心を込めて勤めさせて頂くことが、ひながたをたどるためには、一番大切なことではないでしょうか。

教祖百三十年祭の年祭活動というと、十年前ですので、まだ記憶に新しいと思いますが、私にとって非常に強く心に残っている教祖年祭であります。

当時、私は布教部長という立場で大教会の年祭の心定めは別席者千名でした。年祭活動の二年目が終わっても、確か半分にも届いていない状態だったと思います。それが、年祭活動三年目、斯道会別席団参のお打ち出しがあり、この旬の風に乗って、何とか、十一月の別席団参で、心定めが達成できたことは、本当に忘れることは出来ません。網走大教会全員で力を合わせて達成できた心定めだなと感じました。

この大教会の心定め達成ももちろん心に残っていますが、それ以上に、心に強く残っているのが、私たち夫婦で定めた心定めです。一度この祭典講話でもお話しさせて頂いたのですが、この年祭活動でたすけて頂いた話ですので、もう一度話させて頂きます。

教祖百三十年祭の年祭活動が始まる直前、ですので今から十一年前になります。私たち夫婦は、結婚して十年以上経っていたのですが、子供がいませんでした。当時の大教会長様、鈴木邦廣先生から呼ばれて、あんた方、子供は欲しくないのかい？と、問われ、子供が欲しかったら、これだよ、これ。と、にをいがけ五千件、と言われました。

自分たちのご守護を願っての心定め、初めての経験でした。三年間でにをいがけ五千件というと、いつも普段からにをいがけをされている人でしたら、そんなに大変な数でもないと思いますが、私たちにとっては大変でした。

先ほどの、大教会の別席者千名と同じで、三年千日の一年目が終わっても、心定めの三分の一どころか五分の一にも達していない状態でした。それでも三年目の秋頃、何とか雪の降りだす前には五千件達成できました。

そして、年が明けて教祖百三十年祭、夫婦でおぢばに帰らせて頂きました。このおぢばがえりをしている最中に、児童相談所から電話がありまして、生まれて二ヶ月も経っていない男の子を一人預かってもらえないか、という連絡でした。

最初は、二、三ヶ月という話から、少し伸び、最終的には、実の親御さんは育てられないので、養子に出したいという話になり、うちで預かっていたのもあり、特別養子縁組という形で、私たち夫婦に子供のご守護が頂けました。

この教祖年祭活動の期間は、ご守護が二倍も三倍も頂ける時です。心定めをして仕切って動いたら、必ずご守護が頂けます。どうせ動くなら今、この旬に動かないともったいないです。

先月の真柱様のお言葉にあったように、この年祭期間、私たちようぼくは、教祖のお心に溶け込んで、教祖のお心通りに、素直に実行して、たすけ一条に励ませて頂きましょう。

立教186年 人のご守護 心定め			
初席者	ようぼく	修養科修了者	教　人
69名	44名	34名	21名
成　果		（11月末現在）	
27名	9名	6名	4名

学生会

11月19日、『おぢば網走学生会の集い』が開催された。藤山隆三委員長が挨拶した後、三幣正志学生担当委員会委員長のビデオメッセージを見させて頂き、その後、詰所で帰参者の受け入れ準備ひのきしんをさせて頂いた。

午後からは、ボーリングに行かせて頂き、楽しいひと時を過ごさせて頂いた。

▼参加者5名

五代会長夫人　三幣昌子之霊様　二十年祭

五代会長夫人、三幣昌子之霊様の二十年祭が、十一月十四日午前十時より、世話人久保善平先生祭主のもと、大教会祖霊殿で執行された。

年祭終了後、三階会議室で直会が行われ、新川正人理事の献杯のあと、食事をしながら各テーブルでは思い出話で盛り上がり、途中には大教会長が作成した思い出ＤＶＤを鑑賞したり、数名が思い出をスピーチし、故人を偲んだ。

▼参拝者約百名

【三幣昌子之霊様略歴】

○昭和19年10月28日　北海道札幌市にて誕生
○昭和43年2月28日　三幣公明五代会長と結婚
○昭和63年　婦人会網走支部支部長を拝命
○平成8年～12年　婦人会本部委員を拝命

婦人会・女子青年

ドーナツの会はみちのだいおはなし会と母親講座に分かれてそれぞれ受講させて頂き、その後、和集館にて会食をさせて頂いた。

▼参加者　会員10名・子供4名

女子青年は別席を受けさせて頂き、夏にこかん様に続く会を受けられなかった人で、こかん様のお話を聞かせて頂いてから、懇親会に行かせて頂いた。

▼参加者　5名

青年会

11月25日、第97回天理教青年会総会が開催された。今年は4年ぶりに中庭での総会となり、大勢の青年会員がおぢばに参集し、青年会長様の告辞、真柱様のメッセージを頂戴した。

午後からは、各所でイベントが開催され、夕づとめ後には、模擬店やパレードなどで盛り上がった。

▼総会17名参加

秋の収穫　野菜のお供え

今年も大教会に、たくさんの野菜のお供えを頂いた。

網走市の若井農場からは、約50コンテナの玉ねぎを、また、11月1日には、網走市嘉多山の洞ケ瀬農場にてじゃがいもの収穫ひのきしんをさせて頂き、今年もたくさんのお供えを頂いた。

他にも、様々なところから大根やかぼちゃなどの野菜をお供え頂いた。御丹精誠にありがとうございました。

～ お知らせ ～

《お願いづとめ・おさづけ取り次ぎ》

教祖140年祭に向かうようぼくそれぞれの心定めの完遂とおたすけの御守護を願い、教会本部神殿で、日曜・祝日、毎月25日の午前11時30分に「お願いづとめ」が勤められます。
おぢばへ帰参される方はぜひご参加ください。

また、「お願いづとめ」終了後、願い出られた方に対して、おさづけの取り次ぎを行います。
時間は、終了後（午前11時45分ごろ）から午後零時30分まで。
場所は、西礼拝場。当日、殿内に設けられた受付で、所定の申込用紙に必要事項を記入して下さい。問い合わせは年祭準備会議事務局（内統領室）まで。

《おやさとひのきしん》

親里でのひのきしんを希望される方に、ひのきしんの受け入れをいたします。個人や少人数でも気軽におつとめいただけます。希望される方は、下記の場所に問い合わせてください。

○神苑、境内地
　【受付】保安室境内掛本所、西支所
　【時間】本部朝づとめのまなび終了後から夕づとめ１時間前まで
○おやさとやかた東棟周辺
　【受付】おやさとやかた管理室管理掛
　【時間】９:00～15:00
○豊田山墓地
　【受付】教祖140年祭事務局（内統領室）
　【時間】９:00～16:30

《ようぼく講習会》

ようぼくがそれぞれの立場で陽気ぐらし世界実現に向かってその使命を果たすことができるよう、親里ぢばにおいてをやの思召を学び、自分の役割を再確認し、今後の日常生活に活かす場です。

【対 象 者】　ようぼくで、講義・講話やグループタイム等の講習会受講が可能な方
　　（年齢は問いません）
【開催内容】　3つの1日コースプログラムと、2つの1泊2日コースプログラムを開催します。

※詳しくはこちらのQRコードを読み取ってご覧ください。

≪お願いづとめ・おさづけ取り次ぎ≫
≪おやさとひのきしん≫

≪ようぼく講習会≫

動静

◎年祭

▼直轄所属・大箭一男の霊様の1年祭が11月30日、大教会の祖霊殿にて大教会長祭主のもと執行された。

▼網新分教会初代会長・新川ミヱの霊様の20年祭が11月11日網新分教会にて細木善信・大教会役員祭主のもと執行された。

11月人のご守護

○初席者（4名）

直轄　瀬川ひかる
陽光　栗木豊子
實東　藤本希世
東網　長谷川優花

○中席者（5名）

直轄　浅田幸斗
女満別　福田和彦
常呂　野村秀子
網新　新川愛貴
東網　長谷川輝心

○おさづけの理拝戴者（3名）

女満別　福田和彦
常呂　野村秀子
徳道　斎藤明日香

○修養科修了者（2名）

常呂　野村秀子
藤井道恵

○教人資格検定講習会修了者〔全期〕（1名）

誠央　加賀谷和子

○別席傍聴願（2名）

育英会寄付者

大箭朋彦様（父1年祭）
網新分教会様（初代会長20年祭）

大教会11月の動き

1日　役員会。洞ケ瀬農場じゃがいも収穫
2日　会長、教区会議出席、おぢばがえり
3日　会長、教人資格講習会講師（5日まで）
4日　お話し会
5日　縦の伝道日
9日　網走支部例会会場
10日　役員会会議
11日　教祖140年祭網走おたすけ委員会会議
12日　月次祭。役員会会議。連絡会
13日　世話人先生ご到着。教会長夫妻練り合い
14日　五代会長夫人三幣昌子之霊様20年祭
16日　会長、札幌方面直轄信者まわり。（18日まで）
17日　支部婦人会例会会場縦の伝道日
19日　会長、おぢばがえり
22日　会長、本部神殿奉仕つとめる。詰所23会
23日　会長、本部災救隊会議出席。青年会総会参加
25日　本部月次祭遙拝。会長、教区主事会、その他会議出席。結城和広役員、本部神殿奉仕つとめる
26日　会長、かなめ会出席。細木善信役員、本部神殿奉仕つとめる
27日　会長、一期講師全体研修会
28日　会長、大箭一男の霊様一年祭祭主つとめる。みそか会
30日

教祖140年祭

立教186（令和5）年人のご守護成果表（11月末現在）

教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	帰参者 当月	帰参者 累計	教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	帰参者 当月	帰参者 累計
直轄	5	3				8	86	誠央	2	2				1	34
美幌							2	常道						1	2
女満別	1	12	1			9	62	徳道	1	7	1			4	46
斜里町							2	満金					1		6
釧厚							3	網安							1
武士					1	1	4	オホーツク						14	30
常呂		8	2	2		20	80	網徳							5
旭網	1					1	16	栗沢							8
御料							3	徳元	2	7				1	19
東藻琴							1	網盛							6
陽光	2	1				5	31	網新	3	7				4	23
呼人						2	13	網葉							1
誠陽		2				1	12	網陽						2	4
網栄							5	誠網	6	18	1	4	1	3	79
實東	1				1	4	44	網次	1	7				1	14
東網	1	3	4			3	13	網昇	1					3	24
宗稚						1	26	勇走						1	15
								詰所						12	81

初席 当月	初席 成果	中席 当月	中席 成果	ようぼく 当月	ようぼく 成果	修卒 当月	修卒 成果	教人 当月	教人 成果	帰参者 当月	帰参者 成果
4	27	9	77	3	9	2	6		4	102	801

11月　月次祭　11/12(日)

〈参拝者数　約90人〉

神殿講話	賛者	指図方	扉者	祭主	祭員	祭典役割
結城和広	田中 安澤 三水 清野 奥 光繁 春広 知雄 直幸 治	新川正人	小松 三幣 篤志 正志	大教会長		
胡三味琴弓線	小りが鼓 す子ね 太 子鼓 拍ん 笛ぽん ちゃ	地方	てをどり			
山崎 丸山の蔦 三幣 山り代 結城 細木 藤山 澤田 桐谷 瀬川 和善 重忠 厚定 広信 善和 平自	三幣 大幣 栗山 正志 雅人 徳正	藤林 栗山 リ道 大教会長 子子 新一 丸山 正人 大教会長	座りづとめ			
三澤田由美子 藤山裕子 清水 藤吉 山 斎瀬 信重 光芳 定明 喜善 正徳 自宏	田中 青小 山松 正篤 繁博志	大山 細木 泰 村井 朱 遠藤 さと 遠田 明 三幣 眞敦 子美 広明 志	前半			
三幣美代子 栗林直子 藤井 眞壁 広正 三幣 新川 岩原 増田 永井 正志 裕康 繁一幸	三澤 清奥 水野 春雄 知治 直幸	新川千穂子 三瀬幣 有子 遠藤 祐子 安田 浩二 眞壁 光広 正教	後半			